

# 19 松江における衛生思想の歴史 —A.ローレツ、田野俊貞、後藤新平、W.K.バルトン—

【全1回】／開催方法：現地のみ

おか ぎき ひで き  
**岡崎 秀紀**

学芸員  
島根大学教育学部  
非常勤講師  
松江バルトン会  
幹事



受講料 一般料金：¥2,600 早割価格：¥1,600(納入期限：11月25日)

【日程・時間】【全1回】

11月29日(土) 12:30~14:00

■受講に必要なもの

[テキスト] 要購入

※開講日までに刊行予定の図録です。

詳細未定のため、申し込み時に別途ご案内します。

幕末から、松江ではコレラなどの伝染病が流行しました。ドイツ医学を学んだ田野俊貞らは、衛生思想の普及に目覚め、上水道敷設を建議するなど、尽力しました。W.K.バルトンによる忌部サミズ水源の提案(1895年(明治28)調査)の20年後、諸課題を乗り越え、1918年(大正7)になって松江市の上水道が通水を開始しました。感染症の時代の今日、衛生思想の先人である4人の業績を知って、松江市の衛生思想や水道の歴史を学び、身近な「水」から環境の世紀を考えたいと思います。

## 1. 「衛生」のはじまり

## 2. 衛生思想の普及と実現に貢献した4人の先人

### 1) A.ローレツ(1846-1884): “衛生思想・断訟医学の祖”

オーストリア出身、1874年来日。1876年より、愛知県公立医学校(名古屋大学医学部)の教官として、田野俊貞、後藤新平らにドイツ医学・衛生学を教授した。その後、石川県金沢医学校(金沢大学医学部)、山形県済生館医学寮などを経て、1882年帰国した。

### 2) 田野俊貞(1855-1910): “衛生思想普及の先駆者”

栃木県出身。大学東校(東京大学医学部)に入学しドイツ医学を学ぶ。1878年、愛知県公立医学校教官となり、後藤新平と出会う。ローレツから臨床医学・衛生学・法医学を学び、その講義を口訳し出版した。1884年より島根県で勤務し、医学校教諭、松江病院長等を歴任する。

### 3) 後藤新平(1857-1929): “衛生国家の推進者”

岩手県出身。1876年以降、愛知県公立病院医師・医学校教官となる。ローレツから外科・臨床医学を学ぶ。衛生警察(法医学)に関心をもつ。内務省衛生局長、台湾総督府民政長官、東京市長として衛生行政に敏腕をふるった。田野とは愛知時代から終生の友として親交した。

### 4) W.K.バルトン(1856-1899): “日本衛生工学の父”・“松江市水道の恩人”

スコットランド出身。帝国大学工科大学衛生工学教授、内務省衛生工学技師。全国29都市の水道設計に関わる。1895年、国内最後の調査地・松江を訪れ、水源は忌部サミズが最適と報告する。翌96年、後藤新平の要請で台湾に渡り、台北、基隆の水道設計に従事した。

## 3. まとめ



A.ローレツ(1846-1884)  
『ロレンツ博士』1910年



田野俊貞(1855-1910)  
『松本おとよ中校』1896年



後藤新平(1857-1929)  
『後藤新平』1929年



W.K.バルトン(1856-1899)  
『バルトン博士』1896年

## 【参考書】

西洋医学受容から衛生思想普及までの道のり(松江市ふるさと文庫24)

著者: 田野俊平、梶谷光弘 出版社: 松江市歴史まちづくり部史料編纂課 出版年: 2020